

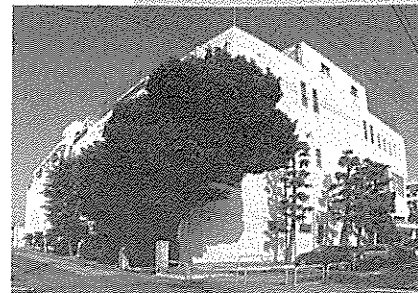
事例紹介 3

●倉庫業／梱包

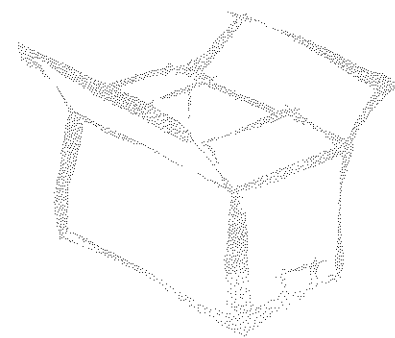
凸版物流株式会社 西が丘加工センター

(東京都北区赤羽6-2-2)

2004年1月現在、凸版物流が雇用している障害者は、心臓機能障害者、聴覚障害者など8人(1級3人、2級2人、3級1人、4級1人、6級1人)。



高付加価値セット梱包に 聴覚障害者ならではの 集中力が生かされています。



健常者には真似のできない神経の細やかさ

凸版物流は、1988年、凸版印刷株式会社の100%出資により設立された総合物流企業です。この会社の特徴は、主として凸版印刷の業務における最終工程を担い、商品の付加価値を高めるセット梱包を行うというところにあります。梱包の基本は商品の保護ですが、商品によってはセット梱包によって初めて商品価値が生まれるものもあります。たとえば、子どもたちに大人気のカードゲームや通信教育の教材、贈答品などです。

西が丘加工センターは、そのセット梱包を主たる業務としている事業所で、現在60人いる従業員のうち3人が聴覚障害者です。一般の生産ラインと比べると、多品種少ロットの商品を扱うため、毎日同じ作業ではないという難しさがあるにもかかわらず、健常者としての働きぶりをみせています。

「3人とも入社4年目ですが、非常にまじめですね。そして、集中力があります。多品種少ロットですから、『今日は手で、明日は機械で』ということはしょっちゅうです。でも、その日その日で見れば、同じ作業の繰り返しになるわけですよ。そこで、集中力が生きてく

るわけです。たとえばカードのラインだと、流れてくるカードが裏返しになっていたり、天地逆になっていたりすることがままあるわけです。それをすぐ見つけます。実に神経が細かいんですね。指示されたことはきっちり守る、手抜きはしない」と感心するのは部長代理の藤越俊則さん。

「障害者だからといって特別扱いすることはありません。ごく普通の従業員として考えています。ただ、そうはいつでも現実にハンディはありますから、そこを私たちがどうカバーしていくかというのが問題なわけです」と語るのは総務部課長の緒方さん。

聴覚障害の特徴は、コミュニケーションの場面において困難を伴うことです。この会社のように日々仕事の内容が変わる場合、そのつど細かい指示が必要になるので、その点の配慮が最も大切です。



ポストカードの封入作業。普段は3人別々のラインにつきますが、撮影用に特別3人並んでもらいました。

「簡単な指示なら私の手話でも間に合いますが、こまごましたことになると、紙に書いて渡し、十分理解してもらったうえで進めています。お客様の大事な商品を扱うわけですから、その点は慎重にやっております。しかし、手話のレベルはやはり上げたいので、現在本格的な勉強会を行う方向

で検討しています」と緒方さん。

思わぬ効果を生んだ手話通訳ついで独唱

手作業の仕事を探していて、この会社に就職した榎直之さん。この日も出版社のポストカード(読者が応募したもの)をセットして封入するという仕事を鮮やかな手さばきでこなしています。

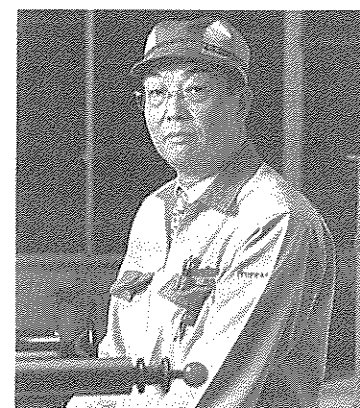
榎さんは3人の中では障害の程度が一番軽いいため、通訳の役を買って出るなど、健常者の人たちとのコミュニケーションを積極的に図っています。また、飲み会の折などには、歌詞を手話で通訳しながらアカペラで歌を歌います(もちろん声も出します)。この効果は絶大で、一緒に働く健常者の人たちも徐々に手話を覚えてきているとのこと。

池畑みつゑさんと七草木紀子さん。歳も同じ、また趣味も似ていることから2人は大の仲良しで、休憩時間など、このコンビが職場に明るい雰囲気をつくり出しています。

「普段は3人バラバラのラインについてもらっています。それは健常者とのコミュニケーションを積極的にとってもらうためです。能率・効率という点で互いに良い刺激にもなります。気をつけているのは、事故・

災害ですね。もし災害があればすぐ館内放送で伝えるわけですが、聴覚障害者には聞こえないので、そばにいる健常者が肩をたたいて知らせるように、両者共に徹底して教育しています。また、フォークリフトは、パトライトをグルグル回して、見てすぐにわかるようにしています。幸いこれまで事故は1件もありませんし、トラブルもありません」と藤越さん。

まだ社内には完璧に手話のできる人はいないようですが、榎さんの努力もあって同僚たちの手話への関心も高まっています。障害者と健常者とがコミュニケーションをとりやすい職場配置のおかげで、障害者にも健常者にも働きやすい職場となっています。



腹を割って話すことが意思疎通のポイントと語る藤越部長代理。

★ Just the point ★

まずはコミュニケーション。あとはどうハンディをカバーしてあげられるかですね。

凸版物流株式会社 総務部 課長
緒方 慎一(おがたしんいち)さん



最も大切なことはコミュニケーションですね。あくまでもひとりの従業員としてみていかなければなりません。聴覚障害というのは他の障害者に比べてどうしても意思の疎通が回りづらいため、その点に一番気を遣います。毎朝、朝礼をやりましても、話す内容を事前にワープロ打ちしておいて必ず朝礼後に渡しています。そうすると彼らは安心するわけです。あとは普段のコミュニケーションですが、ときどき飲み会やらボウリング大会をやったりしています。幸い3人ともお酒が好きなので、飲み飲みざっくばらんな話をして、理解を深め合っているというところでしょうか。



PROFILE

榎 直之(えのき なおゆき)さん
1952年生まれ 51歳。
障害は感音性難聴(2級)。

生まれつきの聴覚障害で、聴力は現在、左右とも100デシベル。2001年、凸版物流入社。梱包セット作業員。



PROFILE

池畑 みつゑ(いけはた みつゑ)さん
1944年生まれ 59歳。
障害は感音性難聴・言語機能喪失(1級)。

4歳のときに麻疹が原因で聴覚障害に。聴力は現在、右110デシベル、左109デシベル。2001年、凸版物流入社。梱包セット作業員。



PROFILE

七草木 紀子(ななくさぎ のりこ)さん
1944年生まれ 59歳。
障害は感音性難聴・言語機能喪失(1級)。

3歳10か月のときに病気が原因で聴覚障害に。聴力は現在、左右とも100デシベル。2001年、凸版物流入社。梱包セット作業員。